

明日香村内史跡の 再現CGアニメーション作成プロジェクト

明日香村内の史跡をCGアニメーションによって再現しました。



第3作「水落遺跡と水時計」のCG画像

活動の概要

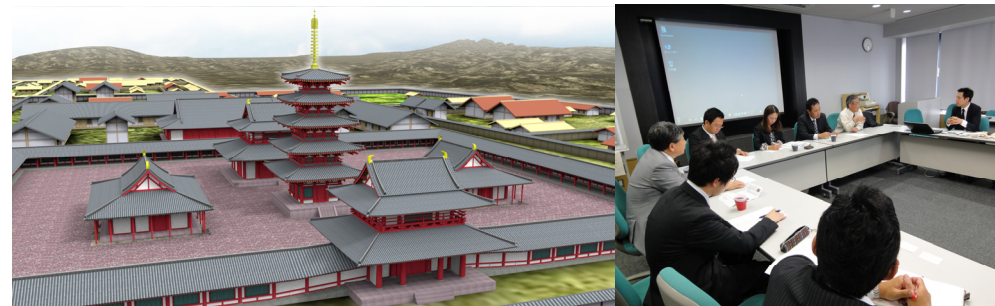
目的	明日香村の魅力可視化して小学校教材および観光ツールとして発信すること
連携メンバーおよび役割	奈良県明日香村・・・村内の各種調整、CGおよび副読本作成における監修作業の協力 東京大学生産技術研究所 池内・大石研究室・・・各種データの提供 株式会社アスカラボ（池内克史研究室発ベンチャー企業）・・・CG作成 関西大学文学部教授 米田文孝 / 関西大学考古学研究室・・・CGおよび副読本作成における監修と執筆
活動地域	奈良県明日香村 / 関西大学千里山キャンパス
活動期間	2010年1月1日～2011年3月31日（第1作） 2011年4月1日～2013年3月31日（第2作） 2013年5月27日～2015年3月31日（第3作） 2015年9月1日～2017年3月31日（第4作 ※作成中）
費用	明日香村からの受託研究費

連携の経緯

関西大学と明日香村は、1972年（昭和47年）の高松塚古墳壁画発見をはじめ、考古学を中心としたさまざまな連携を進めてきた。その実績を基盤として、明日香村より小学校教材および観光ツールとして活用することを目的として、明日香村内の史跡再現CGアニメーション作成について依頼があり、本プロジェクトが始動した。

解決すべき課題

- (1) 村内の魅力を目に見える形で発信すること



第2作「飛鳥寺と飛鳥大仏」のCG画像

作成にあたっての連携メンバー打合せの様子



青龍



朱雀



白虎



玄武

古代の守り神（四神）をモチーフにしたオリジナルキャラクター（考古学研究室の学生が作成）

大学の役割

このプロジェクトは明日香村の要望に基づいて設定されたテーマに応じて、明日香村内の史跡を再現するCGアニメーションおよび副読本を作成することを目的としている。

CGアニメーションは明日香村との共同監修の下、東京大学生産技術研究所の池内・大石研究室からの各種3次元データ提供協力、および同研究室発ベンチャー企業「アスカラボ」へのCGアニメーション作成業務委託によって制作された。

また、CGアニメーションに併せ、各方面の協力を得て、考古学研究室の学生が主体となり、小学校教員用の解説副読本も作成した。

これらの成果として、第1作「石舞台古墳～巨大古墳築造の謎～」(2009～2010年度)、第2作「飛鳥寺と飛鳥大仏」(2011～2012年度)、第3作「水落遺跡と水時計」(2013～2014年度)が完成。明日香村より、畿内約3,300校の小学校に教材として無償配布された。

2015年度からは第4作「飛鳥京跡CGアニメーション」の作成に取り組んでいる。完成したCGアニメーションは、明日香村HPや明日香村内の各種施設において閲覧可能。

今後の展望

- (1) 教育現場における使用実態調査
- (2) 小学校教材としての問題点や提案のフィードバック
- (3) 児童の理解度調査による成果品の修正

研究者の紹介



文学部 教授
米田 文孝
(よねだ ふみたか)

仏教が日本に来た道をもとめて約25年、仏教のはじまりの地であるインド共和国で調査を行ってきました。その後、ユーラシア大陸を東にすすみ、仏教が日本で最初におこった奈良県の飛鳥の地にたどり着きました。倭国・日本国の都であった飛鳥の姿を一度目にしたいと夢んでいます。

現場の声

・鈴木七奈
(関西大学大学院文学研究科博士課程前期課程1年)

明日香村にある遺跡についての副読本に携われると決まったときは、とても嬉しかったです。実際の制作の段階では、自身の勉強不足や読者にわかりにくい表現で、何度も文章を修正しました。上手くいかず、苦しむ時もありましたが、回数を重ねることに自分の勉強の成果が反映され、わかりやすい文章になっていくのが分かり、最後まで制作を続けることができました。